

議会議案第3号

東京2020オリンピック・パラリンピックの中止に関する決議について

別紙決議を議決しようとする。

令和3年6月8日提出

提出者

奈良市議会議員 北村拓哉

賛成者

奈良市議会議員 山本直子

同 白川健太郎

同 山口裕司

同 井上昌弘

東京2020オリンピック・パラリンピックの中止に関する決議（案）

現在、新型コロナウイルス感染症による日本の医療機関の逼迫は、楽観視できない状況にある。また、既に当該ウイルスの変異種が発生し、ワクチンの効能も過信できない状況である。

五輪開催まで2か月を切った今も、日本各地は緊急事態宣言下にある。日本の感染状況を憂慮した米国政府は5月24日、日本を「渡航中止」国に指定した。米国のCDC（疾病対策センター）はワクチン接種済みでも変異ウイルスに感染するリスクがあると警告している。

国内外の専門家が繰り返し、今夏、諸外国の多数の人々が入国し、1か所に集中させることによる感染爆発や医療崩壊のリスクが甚大であることを指摘し、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会長も、今のパンデミックの状況で開催することは「普通はない」と述べ、人流増による感染拡大について懸念を示している。

国民世論からは、東京五輪・パラリンピックの開催中止を求める署名が短期間に41万筆を超えて広がるなど、「開催ありき」で国民の命を犠牲にしても意に介さないとばかりに突き進む政府の姿勢に厳しい目が注がれている。メディアからも政府に開催中止の決断を求める意見が出されている。

医療従事者も今、悲鳴を上げている。医療従事者はオリンピックのための道具ではない。尊い人間である。

奈良市もオーストラリア女子サッカーチームのホストタウンになっており、東京五輪・パラリンピックと無関係でなく、パブリックビューイングも奈良市内で計画されている。開催することで、国内外へ感染を拡大させかねないと市民の中でも不安が広がっている。人の命に代えられるものはない。

よって、東京2020オリンピック・パラリンピックは中止すべきである。

以上決議する。

令和3年6月10日

奈良市議会